

中期目標の期間の終了時に見込まれる中期目標の期間における業務の実績に関する評価結果の反映状況一覧

公立大学法人国際教養大学の平成28～令和元年度の期間評価結果の反映状況

期間評価における指摘事項	評価項目	令和2年度の業務運営等への反映状況
<p>グローバル・セミナー入試の定員の見直しやアドミッション・オフィサー制度を導入したことは評価されるものの、中期計画に掲げた「秋田県地域枠を設ける」等の方策を具体化し、県内出身者20%以上の目標を達成するような更なる努力が求められる。</p>	<p>I-2-(1)</p>	<p>○グローバル・セミナー入試の定員を、10人から15人に増員した結果、直近の令和2、3年度入試において毎年20人を超える学生が入学し、県内学生を安定的に確保できている。</p> <p>○一方で、新たな秋田県地域枠の設定について検討したものの、大学入試の公平性や本学で学ぶ資質のある学生の確保という点でなお課題があり、導入するという結論には至っていない。県内出身者20%以上の学生の確保に向けた方策については、引き続き検討している。</p> <p>○こうした状況の中で、アドミッション・オフィサー活動を通しては、過去最高となる3名が入学するなど、数としては多くないものの地道な取組が実を結んでおり、継続的に努力している。今後も、求める学生像に合致する高校生へ受験勧奨を行う等、県内教員や県内高校生への広報活動を通して、目標達成に努めていく。</p>
<p>広報活動の強化等に取り組んでいるものの、大学院定員の未充足が継続していることから、大学院学生の確保に向けた更なる努力が求められる。</p>	<p>I-2-(3)</p>	<p>○大学院生の確保に向けて、オンラインを活用した大学説明会・個別説明会の実施、現職教員の受入れ、広報活動の強化に取り組んできた結果、令和2年度に実施した選考における出願者34名のうち、令和3年度に30名（4月入学13名、9月入学17名予定）が入学し、入学定員30名を充足する見込みである。これは、平成30年度以来2度目となる。また、令和3年度春選考での合格者を加え、同年9月には、当該専門職大学院の設置から初めて、収容定員60名を充足する見込みである。</p> <p>○今後も引き続き、広報活動に取り組み、継続的な定員充足に努めていく。</p>